令和５年度『豊かな心をはぐくむ家庭づくり』作文　最優秀賞

小学校低学年の部
最優秀賞

さくらへのおねがい

近江八幡市立八幡小学校
１年　松井（まつい）　律（りつ）

ぼくはよにんきょうだいです。おにいちゃん、ぼく、おとうと、そして１ねんまえにおかあさんがうんでくれた、いもうとのさくらがいます。

さくらはとてもかわいいです。どこが、ときかれるとこまります。だって、ぜんぶかわいいからです。さくらがわらっていると、てんしみたいにかわいいです。ぼくもうれしくなります。いっしょにあそんでいるときや、ねているときもかわいいです。ぼくのところにはいはいしてくるときもかわいいです。おなかがすいてないているときも、ごはんをいっぱいたべて、それをぽろぽろおとしちゃっても、おもちゃをちらかしても、それでもやっぱりかわいくてたまりません。どうしてこんなにかわいいのかというと、それはみんなにあいされているからなんだとおもいます。

さくらはこのまえ１さいになりました。ぼくが「いないいない」というと、「ばあ」といってわらうし、ちょっとずつたったりあるいたりできるようになってきました。できることがふえてきて、せいちょうしていてすごいなあとおもいます。

ぼくはさくらをだっこするのがだいすきです。ぼくがだっこすると、さくらもぼくをぎゅっとしてくれるから、うれしくて、なんだかなみだがでそうになります。うまれてきてくれてありがとうというきもちでいっぱいです。

さくらがおおきくなったら、いっしょにおままごとをしてあそんであげたいです。もうすこしあるけるようになったら、てをつないであるきたいです。みんなでゆうえんちにもいきたいし、きょうだいよにんでぴあののはっぴょうかいにもでてみたいです。

そんなかわいくてだいすきなさくらに、３つのおねがいがあります。ひとつめは、ぼくのものをぐちゃぐちゃにしないでね。ふたつめは、ぼくたちみたいにやんちゃにならないでね。さいごに、ぼくはさくらがだいすきだけど、おかあさんのこともだいすきなんだ。さくらはいつもおかあさんといっしょにいられていいな。ぼくもおかあさんともっといっしょにいたいから、そのときはちょっとだけがまんしてね。

小学校中学年の部
最優秀賞

言葉の力

長浜市立速水小学校
３年　山下（やました）　晃生（みつき）

　小学３年生になって学校で国語じてんの使い方をべん強しました。その時クラスみんなで『コトバトバトル』をしました。『コトバトバトル』とはテーマにあった言葉を国語じてんから見つけ出して発表しあうゲームみたいな、とても楽しい時間です。

　わたしは、じゅぎょうでしたバトルの事を家でお母さんに話しました。

「今日の国語の時間に“かのつく長いもの”をさがして、わたしは家族って答えたんやで。」

　するとお母さんはふしぎそうな顔をして

「なんで？」

と聞いてきました。だからわたしは、

「家族ってずっと前からうけつがれて来てるやん。おはかまいりに行ったら今までの人にも会えて、よろこんでもらえるやろ。だから家族ってものすごく長いと思たんや。」

　それを聞いてお母さんは、

「みつきはすごいね。そんな風に考えられるんやね。お母さんうれしいわ。」

と、言いました。わたしにとっては当たり前の事なのに、言葉でつたえたらこんなに感動してもらえるんだなとおどろきました。

　その何日か後に、じゅぎょうさんかんがあって、『コトバトバトル』を見てもらいました。その時のテーマは“すのつくお母さんがよろこぶもの”でした。スイーツやすみれ、すいかやスカートなどの意見があって、あぁそんなのもあるなぁと思いました。わたしが答えたのは『すき』という言葉でした。だれのお母さんでも子どもに『すき』と言われたら、うれしくてしあわせになれると思ったからです。この発表をした後、さんかんに来ていたお母さんの方をむくと、わらいながら何回もうなずいていました。すきという言葉によろこんでくれたんだと思いました。

　『コトバトバトル』でいろいろな言葉を見つけて、その言葉をお母さんにつたえたら、お母さんはうれしいと言ってくれました。お母さんだけじゃなくて、周りの人たちも言葉でつたえたら、きっとよろこんでくれると思います。

　わたしには、おじいちゃんとおばあちゃん、おじさんやおばさんなどたくさんの家族がいます。ちゃんと自分の気持ちを言葉でつたえて、これからも、みんなえがおですごせたらいいなと思います。

小学校高学年の部
最優秀賞

おじいちゃんの言葉

米原市立米原小学校
５年　髙木（たかぎ）　日花理（ひかり）

私は３年生のころ、学校に行けなくなってしまった時期がありました。２年生までは休みの日も行きたいぐらい学校が大好きで楽しかったのに、その時はとてもしんどくて心と体がつかれていたと思います。そんな私を見て、おじいちゃんが言ってくれた言葉があります。

「いやなことがあったら泣いてもいいし、逃げてもいい。けど、あきらめるのだけは絶対にあかん。」

です。

言われたその時は、おじいちゃんの言葉の意味がはっきりと分かりませんでした。けれど元気のないない私を励まそうとしていてくれたことはわかって、とてもうれしかったです。

しばらくすると、私は前のように元気に学校に行けるようになりました。そして、５年生になった時おじいちゃんは亡くなりました。おじいちゃんのことを考えている時は、この言葉を思い出します。おじいちゃんが何をあきらめたらあかんと言っていたのかは聞くことが出来ませんでした。でも、おじいちゃんが言いたかったことは自分が納得できる形で問題を解決することをあきらめてはいけないということだったのではないかなと私は思います。

学校へ行けなかった時、私は友達との関係で悩んでいました。しかし、家族や周りの人の言葉がけがあって、人には、いろんな考え方があることを学びました。そして、自分が納得できる形でまた関係を良くすることが出来たから、前のように学校へ行けるようになったのだと思います。家族の言葉が私の心を強く、豊かにしてくれたのだと気が付きました。

家族からの言葉は相手のことをよく分かっているからこそできるアドバイスだと思います。そして、心のこもった励ましになったりすると思います。けれど、遠慮がないからこそ、直接的過ぎて傷つけてしまうこともあると思います。私が家族にアドバイスをしたり、励ましたりする時は、これを言われたら相手は一体どう思ってしまうのか、家族という身近な人に対しても考えなければいけないなと思います。

どんな悩み事でも、気軽に話し合えるような関係の家族でいられるように、毎日を過ごしていけたらと思います。

令和５年度『豊かな心をはぐくむ家庭づくり』作文　　優秀賞

小学校低学年の部
優秀賞

わたしのかぞく

彦根市立河瀬小学校
１年　松本（まつもと）　帆加（ほのか）

わたしのかぞくは、おとうさん、おかあさん、いもうと、わたしのよにんです。

おとうさんはいつもおしごとをがんばってます。おとうさんのおしごとはゆうびんはいたつです。あさからよるまでてがみやにもつをはいたつしています。いつもつかれてかえってくるけど、「おかえり」というとわらって「ただいま」といってくれてうれしいです。おかあさんは、まいにちあさおきたらおはようのぎゅうをしてくれます。おかあさんはいいにおいでわたしはおかあさんのぎゅうがだいすきです。いもうとは、「ねえねあそぼう」といってくれます。わたしはいもうとがとてもかわいいとおもいます。このまえいもうとと、だんぼうるはうすをつくりました。おおきさは、ふたりでくっつかないとはいれないぐらいです。だんぼうるかったあできっててんじょうにまどをつくりました。おとうさんにもてつだってもらって、どあにとってをつけました。かぎをかけられるようにしました。おしゃれせっとをいれてあそんでいます。いもうととあそぶのがたのしいです。

わたしは、かぞくでおでかけするのがすきです。おとうさんは、くるまでいろいろなところにつれていってくれます。なつやすみは、あわじしまりょこうにつれていってくれました。あわじしまは、たまねぎだらけでした。あわじしまのまわりはうみでした。はじめてうみをみました。うみはびわこよりもあおいとおもいました。いもうととおとうさんとほてるのぷうるであそびました。うきわでぷかぷかういたりもしてあそびました。おかあさんといもうととほてるのおんせんにはいりました。おふろよりすこしあたたかかったです。おそとにもおんせんがありました。おそとはまっくらでした。とてもきもちよかったです。あわじしまりょこうたのしかったです。

わたしはかぞくのことがだいすきです。いつもありがとうっておもっています。これからもかぞくでおでかけしたりごはんをたべたりしたいなとおもっています。

小学校低学年の部
優秀賞

いのちをいただいて

大津市立晴嵐小学校
２年　隠岐（おき）　蒼波（あおば）

ぼくのいえでは、たべものはすべていのちがあるので、たいせつにいただいています。なぜ、たいせつにいただいているかというとぼくがおおきくなるためと、いきていくために、たべものがいのちをくれているからです。

ぼくのおとうさんとぼくは、おさかなつりが、とってもだいすきです。よくおさかなつりにいって、つれたおさかなをおとうさんがさばいてくれてみんなでたべています。たべているときにおとうさんは、いつもぼくに、お魚を、きれいにたべてあげたほうが、お魚もきっとよろこんでくれるからと言います。だから、たべられるものは、かわやほねもしっかりと、たべきるようにしています。たべきれない大きなほねのときは、できるだけほねに、みがのこらないようにたべるようにしています。また、つってきた魚をおとうさんがおりょうりしてくれているときには、ぼくは、いのちをくれてありがとうと思いながら見ています。

そのほかにも、ぼくのいえには、小さなはたけがあります。おばあちゃんのいえには、大きなはたけがあります。そこでは、いろんなやさいをていねいにそだてています。ぼくも水やりやしゅうかくをてつだっています。やさいのおせわをしているときに、よくミツバチが、花に花ふんをつけにきています。そうすると花からみができていきます。その一つのやさいができるまでに、たくさんの人や、生きものがやさいをみのらせていきます。そうしてやさいのいのちができるのです。だから、やさいをとるときには、いのちをくれてありがとうと思いながら、しゅうかくしています。たべるときは、おいしくのこさずたべています。

魚や、やさいや、お肉などたべものには、いろいろないのちがあり、ぼくがいきるためと大きくなるために、そのいのちをくれて、いてくれています。だからぼくのいのちは、たくさんの魚や、やさいやお肉などのたくさんのいのちであふれています。なので、じぶんのいのちをだいじにして、これからもいのちをくれた生きもののぶんまで、たいせつにいきていこうとおもいます。

小学校低学年の部
優秀賞

ぼくのしごと

長浜市立小谷小学校
２年　速水（はやみ）　悠成（ゆうせい）

ぼくの家での「しごと」は、おふろそうじです。しかし、これはふつうのお手つだいとはちがいます。なぜなら、お父さんからおきゅうりょうをもらうからです。

おふろそうじでは、まずおふろをシャワーでながします。つぎに、おふろにせんざいをかけて、すみずみまできれいにみがきます。それがおわったら、おふろのゆかも同じようにみがきます。さいごに、シャワーでせんざいをきれいにながしておわりです。家の中でできる「しごと」はたくさんありましたが、ぼくができるのはおふろそうじだったので、今もつづけています。

このおふろそうじの「しごと」でのおきゅうりょうは１回１０円です。この「しごと」のおきゅうりょうをきめたのは、お姉ちゃんです。お姉ちゃんは、朝ごはんづくりをしています。いつもつくってくれるりょうりは、たまごやきで、とてもおいしいです。お父さんとお母さんもこの「しごと」をしていて、お父さんは、せんたくが「しごと」です。お母さんの「しごと」はりょうりです。

ぼくがこの「しごと」を始めたきっかけは、２つあります。１つ目は、お父さんとお母さんは、外でもおしごとをしているので、ぼくもお家のお手つだいをしたいと思ったからです。２つ目は、ほしいものがあって、自分でお金をためて買うことを家ぞくで話し合ってきめたからです。「しごと」は、かんたんには休むことができません。ぼくがおふろそうじを休むと、みんながおふろに入ることができません。なので、毎日家にかえったら、わすれずにやっています。お姉ちゃんも朝ごはんづくりの「しごと」をがんばっています。

ぼくは、この「しごと」をしてみて、家のなかでもいろいろなやくわりがあって、どれもこれもだいじなんだと分かりました。これからも、ぼくの「しごと」をがんばりたいし、できる「しごと」をふやしていきたいです。

小学校中学年の部
優秀賞

妹のたん生
～兄として思うこと～

近江八幡市立八幡小学校
３年　松井（まついそう）　奏

２年生の時、「いのちの学習」をして、じょさんしさんにたくさんのことを教えてもらいました。赤ちゃんはお母さんの子きゅうというところで育つということ。お母さんの食べたものが赤ちゃんのえいようとなって育ち、赤ちゃんも子きゅうもどんどん大きくなるということ。だからにんぷさんは大へんだということ。ぼくはそれを聞いて、赤ちゃんを育てるために食べたりのんだりするものに気をつけなければいけないし、けがをしないようにちゅう意しなきゃいけないし、大へんだなあと思いました。

１年前、ぼくのお母さんのおなかもすごく大きかったです。どくどく動いているのが見て分かりました。さわったら、ふるえているような気がしました。もうすぐ赤ちゃんがうまれるんだと、ドキドキ楽しみにしていました。

うまれる直前、お母さんはとてもしんどそうでした。おなかがいたそうで、ずっとソファーでよこになっていました。お母さんを見ていると、ぶじにうめるのかな、うんだら何日か会えないのかなと心配になりました。

お母さんがお父さんとびょういんに行くことになり、ぼくは弟たちとじいちゃん、ばあちゃんと家でまつことになりました。お母さんがびょういんに着いてから 30 分くらいすると、お父さんから「女の子がうまれたよ。」とれんらくがありました。ぼくたちはねるのもわすれて、「やった。女の子だ。」とよろこびました。ぼくにはつけたい名前があったから、妹はどんな名前になるのかなと楽しみになりました。でも、やっぱり１週間くらいお母さんにも赤ちゃんにも会えなくて、さびしくてなきそうになってしまいました。

１週間するとたいいんして、ひさしぶりにお母さんに会えてうれしかったです。はじめて会う妹はとにかく小さくてかわいかったです。だっこしたり、ミルクをあげたりしました。

お父さんやお母さんは、よく妹のことをかわいいと言います。その時、「ぼくはかわいくないのかな。」と思ってしまいます。そんな時、ぼくのアルバムを見たら、しゃしんがたくさんあってびっくりしました。ぼくのことがぎゅっとつまった１さつが、何さつもありました。あとからお父さんが、「そうちゃんのしゃしんが一番多いよ。」とこっそり教えてくれました。それと同時に、ぼくも妹のようにお父さんとお母さんがごはんを食べさせてくれたり、いろいろなお世話をしてくれたりしたからこんなに大きくなれたんだと思いました。

妹はこの前１才になりました。自分で立って、もうすぐ歩こうとしています。おしゃべりはまだできないけど、ぼくたちが歌うとよろこびます。だから、ぼくたちが教えたら、すぐにしゃべれるようになりそうな気がします。ぼくは一番上のお兄ちゃんとして、妹のお世話をし、見守っていきたいと思っています。

小学校中学年の部
優秀賞

小さな命

長浜市立小谷小学校
４年　荒木（あらき）　歓奈（かんな）

私は８才まで一人っ子でした。友だちは兄弟、姉妹がいてとてもうらやましく思っていました。でも友だちは、「一人っ子はいいなあ。なんでも一人じめできるし。」と言いました。たしかに、お父さんもお母さんも、おかしも一人じめできます。でも何となくさみしくて、一人で遊んでいてもつまらないのです。

そう思っていた時、お母さんのおなかの中に赤ちゃんができました。それを知った私は「やったあ。やったあ。」と飛び上がって喜びました。そしていつも「男の子かなあ。女の子かなあ。」と家族で話していました。

そこで生まれてくるまで私は、（まるちゃん）と名前をつけました。だってどちらにも当てはまるからです。私はいつも「まるちゃんどうしている？」と、お母さんに聞くと、「よく動いているよ。」「あっ。しゃっくりをしている。」と言ったので、私とお父さんがおなかをなでて「元気、元気。」と喜んでいました。

そして、ついに七月七日の七夕様の日に待ちに待った女の赤ちゃんが生まれました。

「おめでとう。元気に生まれてきてくれて良かった。」と家族みんなが手をたたいて喜びました。名前は、お父さんとお母さんがずーっと考えていた「千縁（ちより）」とつけました。

千縁とは、何人もの人と縁がつながりますようにというねがいがあります。

私は、楽しみに待っていた妹なので、かわいくって仕方がありません。お風呂やおむつかえ、ミルクを飲ませるなど、いつもお手伝いをしています。

スヤスヤねむっていても、私の指をギュッとにぎります。くんくんと妹のほっぺをにおうと赤ちゃんの甘えたにおいがします。「よいしょ。」とだっこをすると、小さな命の重みがずっしりと手に伝わってきます。「いないいないばあ。」をすると、キャッキャッと喜んで、え顔が返ってきます。こんな妹から、何だかふしぎに生きるエネルギーをもらっているように思います。

お父さんも、お母さんも仕事から帰って来ると、すぐにだっこをして、「今日もいい子にしていたか。」と言って、ほっぺにチュッをして「つかれがふっとんだあ。」とわらっていました。

おじいちゃんや、おばあちゃんも「歓奈ちゃんや千縁ちゃんが大人になるまで元気で長生きせんとあかんなあ。」とがんばっています。

私がすごいと思うことは、妹の小さな命が今まで以上に家族のみんなを、もっともっと幸せにしているということです。

だからこれからも、家族みんながニコニコえ顔でくらせるように、私も進んで妹のお世話や家のお手伝いをしていきたいです。

小学校中学年の部
優秀賞

おじいちゃんとの時間

大津市立晴嵐小学校
４年　山崎（やまざき）　祥章（よしあき）

ぼくはおじいちゃんの家でおじいちゃんと話したいです。サッカーの話、学校の話、夏休みに魚を取ったこと、いっぱい話したいです。朝から夜まで話しても、ぜっ対１日じゃ足りません。話したいことが毎日あります。

でも、おじいちゃんはずっと入院しています。１回たい院してきたのに、また入院してしまいました。前の病院は面会に行けたけど、今の病院は面会に行けません。すごくさびしいです。

だからぼくはがんばってやっていることがあります。それは、日めくりカレンダーを書くことです。おじいちゃんが歩けなくなってから、何かおじいちゃんにしてあげたいと思いました。初めはおじいちゃんが新聞を読むのが好きだからぼくが読んであげたいと思いました。でも、おじいちゃんの家に毎日行けないからやめました。それからいっぱい考えて、おじいちゃんが毎日見ている、日めくりカレンダーを作ってあげたいと思いました。でもいっぱいすぎて大へんだから、お母さんに相談しました。それで、日めくりカレンダーを買ってもらって、〈MEMO〉の所に書くことにしました。書くことは、お母さんにスマホで今日は何の日か見てもらって書いたり、ぼくの家族や知っている人のたん生日を書いたり、サッカーの試合とか習い事のことを書いてます。それから、おじいちゃんが元気でいられるようにおうえんしていることを書いたり、おじいちゃんに「大好き。」と言う気持ちを書いています。今は 10 月の 15 日くらいまで書いて、おじいちゃんにわたしてます。おじいちゃんは力がなくなって、自分でめくれないから、かんごしさんにめくってもらっています。おじいちゃんはそれを読んでくれます。おじいちゃんとは、いっしょにいられないけど、書いている時は、いっしょにいるみたいです。書いている時に会いたくなって泣いてしまう時もあります。でも、これからも書きます。おじいちゃんは読んだらぼくたちを思い出してくれて、わすれないと思います。だから会える時までがんばります。

ぼくが書いてるけど、ときどき妹も書いてくれます。言葉も書くけど絵をいっぱいかいてます。かわいいです。おじいちゃんによろこんでもらえると思います。

ぼくがひらがなやカタカナを覚えられたのは、きん急事たいせん言で学校がずっと休みだった時に、おじいちゃんとおばあちゃんの家に行ってて、おじいちゃんが勉強を教えてくれたからです。算数も教えてくれて、丸つけもしてくれました。ぼうずめくりとかシャボン玉もして楽しかったです。

これからもいっぱい勉強して、日めくりカレンダーを書いたりして、おじいちゃんの役に立ちたいです。ずっと元気でいてほしいです。

小学校高学年の部
優秀賞

思い出のじいちゃん

高島市立本庄小学校
５年　梅村（うめむら）　琵菜（ひな）

今年の６月14日に、じいちゃんが、亡くなりました。悲しかったけど、じいちゃんとの思い出は、たくさんあります。

じいちゃんは、ドライブが好きだったので、いろんなところに、連れて行ってくれました。

私が、２才半の時、安土城址に、じいちゃんと２人で、登ったそうです。その時、100段以上もある階段を、１人でとんとんと、登って行ったそうです。「ひなはすごい！！びっくりした！！」
と、感心して、何回も何回も、ほめてくれました。私が大きくなっても、話していました。

運動会や、マラソン大会の時は、いつでも、応援に来てくれました。書き初めや、作品が展示されると、必ずカメラを持って見に行ってくれました。写真をとるのが好きだったので、いつも上手に、とってくれました。

じいちゃんにとって、私が初孫だったので、私は、じいちゃんにとって、特別な存在だったのかもしれません。

ここ２年ほどじいちゃんのお世話を、毎日していました。少し大変だったけど、少し、楽しい気がしました。なぜなら、じいちゃんが喜んでくれたからです。

じいちゃんは難病で、筋無力症という原因のわからない病気でした。歩きにくかったので、手を持ってあげたり、家の中での生活が大変でした。ばあちゃんと一緒にお世話をしていました。よくせなかがかゆいと言いました。なぜか分からないけどばあちゃんが来ると、
「かいてくれー。」
と、言っていました。何かがあると、
「ひなーひなー。」
と、呼んで、
「せなかかいてくれー。」
が始まります。おふろで背中を流してあげました。爪も切ってあげました。色々と、してあげました。そんな時じいちゃんは、すぐ、
「サイフ持ってこい。」
と、言って、おだちんをくれました。

ばあちゃんは横から、
「そんな多すぎる多すぎる。」
と、やじを入れます。でも、私は、
「へへへ。」
と、言って、もらっておきました。

みんなで笑いながら、とっても楽しい時間でした。

毎晩おまいりも、一生けん命しました。私は、仏さんの前にすわって、CDに合わせて、お経をあげました。小さいいとこ達も、一緒に、リンを、鳴らしました。

今は、もういないけれど、じいちゃんがいる気持ちで、すごしたいなと思いました。

時どき、
「おーい、ひなー。」
と、じいちゃんの声がする気がします。

小学校高学年の部
優秀賞

ひいおばあちゃんと私のあいさつ

長浜市立びわ北小学校
5年　藤田（ふじた）　結乃（ゆの）

私が学校へ行く時に、ひいおばあちゃんは毎朝えん側にすわって「おはよう。いってらっしゃい。」と声をかけてくれます。私も「おはよう。行ってきます。」とこたえて家を出ます。その言葉のやりとりをするだけで、「今日も1日学校をがんばろう!」と思えます。

けれど、集合時間に間に合わない日には、ひいおばあちゃんの「おはよう。いってらっしゃい。」の声かけに、適当にこたえてしまったり、小さな声でこたえてしまったりすることがあります。私がそのまま走って行ってしまっても、ひいおばあちゃんは、さっきよりも大きな声で私の名前を呼んで「いってらっしゃい。」ともう一度言ってくれます。そういう日は、学校へ行く間に、何だかすっきりしない気持ちになる気がします。だから、帰った時には、いつもよりも大きな声で「ただいま。」を言うようにしています。

学校から帰ってきた時にも、えん側に座って待っていてくれ、少しでも姿が見えると、「おかえり。」とだれよりも早く言ってくれます。私が「ただいま。」と言うと、うれしそうに笑っています。学校からつかれて帰ってきた時に、ひいおばあちゃんが笑顔で「おかえり。」と待っていてくれると、私もうれしい気持ちになります。

ひいおばあちゃんは、おばあちゃんやお母さんが仕事に行く時にも、えん側から「いってらっしゃい。」と見送っています。お母さんも、ひいおばあちゃんの「いってらっしゃい。」の大きな声に朝から元気をもらっているそうです。そして、仕事から帰ってきた時にも、ひいおばあちゃんが「おかえり。」と待っていてくれると、「今日も1日がんばって、無事に帰って来られた」と安心するそうです。

ひいおばあちゃんの大きな声でのあいさつは、みんなを元気にするパワーがあると思います。私も、いつも元気をもらっています。私もあいさつで、みんなに元気を送れるように、笑顔で気持ちよくあいさつすることを心がけていきたいと思います。

小学校高学年の部
優秀賞

家族の大切さ

長浜市立びわ北小学校
５年　藤森（ふじもり）　心夢（みゆ）

私が4才の時、弟が入院しました。弟が入院した日は、幼稚園の親子ふれあい活動で、その後、お母さんが付きそいのために、病院へ行かないといけない事になっていました。行事が終わったらお母さんと、離れないといけないというさみしさで、いつもしている事ができず、せっかく作ってくれたお弁当も悲しくて食べられず泣いてお母さんを困らせてしまいました。

弟が入院している間、私は、家とおじいちゃんの家を行ったり来たりしていました。お父さんは、弟とお母さんがいないからと、休みの日にさみしくないように色々な所に連れていってくれました。お父さんと2人で映画を見に行ったのも初めてでした。大好きなアニメの映画を見て楽しかったのに帰りの車では、またさみしくて泣いていました。病院へは、子供は行ってはいけないというきまりになっていたので、弟には会えませんでした。一度だけ弟のリハビリの先生がリハビリ室でぐう然会ったという事にして弟に会わせてくれました。久しぶりに弟に会って、少しの時間一緒におもちゃで遊んで楽しくて、すごくうれしかったです。

ときどき、お父さんとお母さんの両方がいない時もありました。その時は、おじいちゃん、おばあちゃんと一緒にいて、1人になる事はないのに、なぜかしくしく泣いてばかりいて、とても悲しかったです。

でも、おじいちゃん、おばあちゃんが「大丈夫だよ。」「1人じゃないよ。泣きたかったらがまんせずに泣いていいんだよ。」と優しく声をかけ、抱っこや頭をなでてくれました。その時、私は、「1人じゃないんだな」と思い、あたたかい気持ちにもなり、すごく安心できました。

弟の退院が決まった日の事は、お父さんは私に教えてくれませんでした。退院日、いつものようにむかえに来てくれて、いつものように助手席に座ると後ろの座席に弟とお母さんがかくれていて「ねぇね、おかえり。」と2人が言ってくれました。私は、何が起きたのかいっしゅんわからず、おどろきとうれしさがこみ上げてきました。後から「どうして教えてくれなかったの？」とお母さんに聞くと「教えない方がうれしさ倍だし、とつ然帰ってきたらどんな反応するかな！？と思って。」と言われました。

今まで家族みんなが家にいてあたり前でした。でも、あたり前の事があたり前じゃなくなるとすごく心細くなるし、弟がいるとケンカをしてしまう事もあるけど、いないと困る存在だと思いました。家族みんなでいる事は、うれしい事だし笑顔もたえません。お父さんとで2人で出かけるより、みんなで出かけるともっと楽しくなります。家族みんなで一緒にいられる時間は、かけがえのないものになります。

私にとって家族とは、言いたい事も何でも話せる、一緒にいるだけで安心できるとても大切な存在です。困った事があれば、みんなで考え、いつも仲良し家族でいたいと思います。